

公開講座 第36回心身症セミナー 報告

先に実施しました公開講座「心身症セミナー」について下記のとおり報告します。また、あわせてご参加いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

1 第36回心身症セミナーの概要

日時 令和5年10月30日(月) 午後2時10分から午後5時

場所 大阪府教育センター

対象 府内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、支援学校の教員及び教育関係者

内容 テーマ「不登校を伴う子どもの心身症に対する理解と対応」

(1) 実践報告「学校における不登校支援」

茨木市立中条小学校 教諭 川野 香織

茨木市立中条小学校の不登校支援の取組として、別室登校(ほっとルーム)の運営方法や成果や課題について発表があった。「いつでも行ける場所がある」「ほっとする空間」という思いから「ほっとルーム」と名付けられた。教室の様子や予定表の写真なども紹介されていた。質疑応答では、校内体制やどれくらいの人数で運営されているかなど、具体的な運営方法について質問があった。

(2) 「不登校を伴う子どもの心身症に対する理解と対応」

堺咲花病院 心身診療科医師 村上佳津美

はじめに心身症と精神疾患の違いをご説明いただき、不登校の現状と対策について解説があった。学校と医療、福祉の連携の必要性を述べられ、お互いの立場を尊重しつつ、それぞれがどんな治療や教育を行っているか、ある程度理解する必要があると述べられていた。心身症の代表例として、起立性調節障害、過敏性腸症候群の説明があり、症状や治療、配慮事項を含めて解説があった。また、積極的に取り組まれている「思春期こころの健康検診」の概要の説明があり、医療機関、福祉機関との連携や学校での対応に繋げる取組みについて解説があった。質疑応答では、保護者へのアプローチ方法や、教育や医療、福祉との連携に関する質問があった。

2 アンケート結果報告 (アンケート回収113名、未回収17名、回収率87%)

(1) 参加者

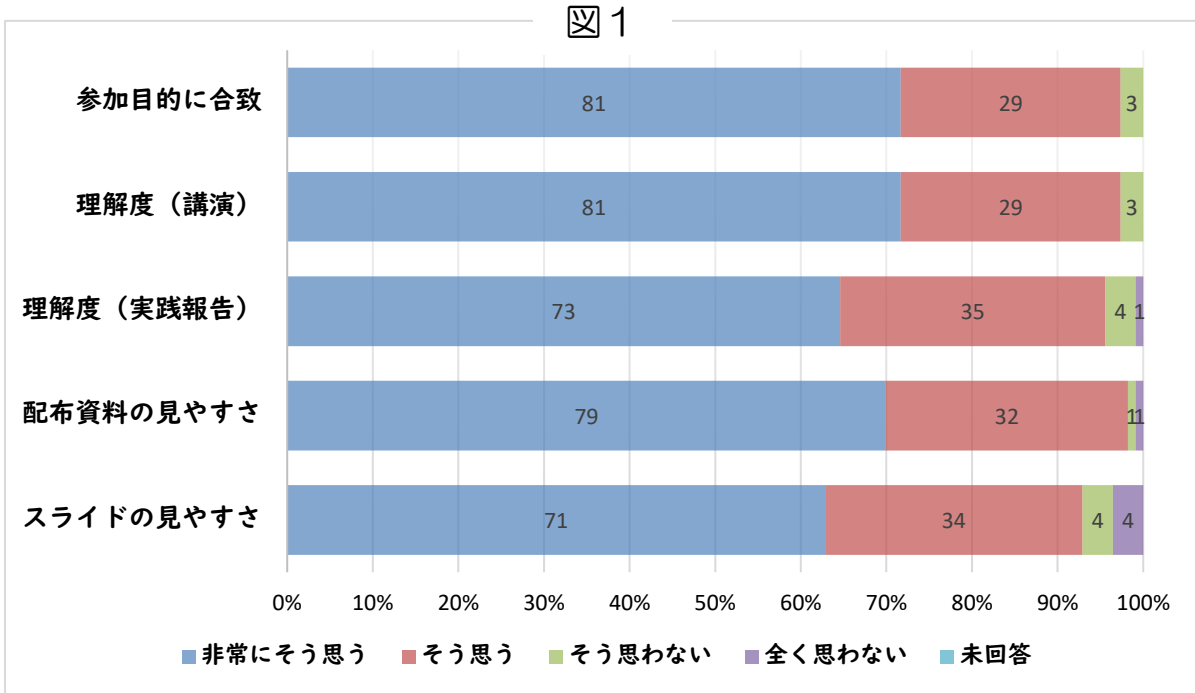
外部から130名の参加があった。(幼・保0.7%、小学校43%、中学校37%、高等学校0.7%、支援学校3%、その他・未回答15%)の参加があった。

職種では、教諭・講師・保育士が最も多く57%、次いで養護教諭・助教諭が18%、管理職が6%であった。

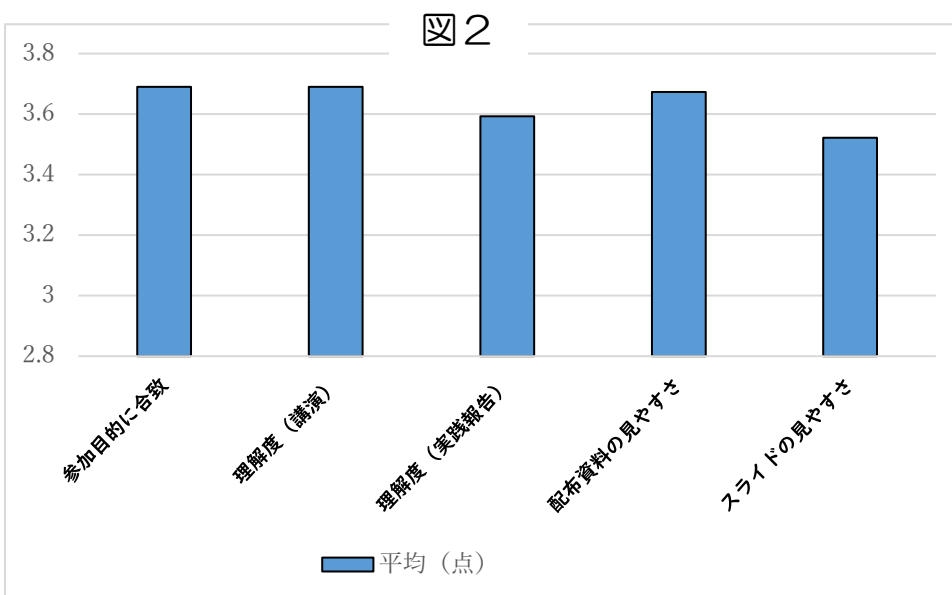
所属(人)	幼・保	小学校	中学校	高等学校	支援学校	その他	未回答	合計
	1	56	48	1	4	3	0	113

職種 (人)	管理職	教諭・講師・保育士	養護教諭・助教諭	その他	未回答	合計
	8	74	24	7	0	113

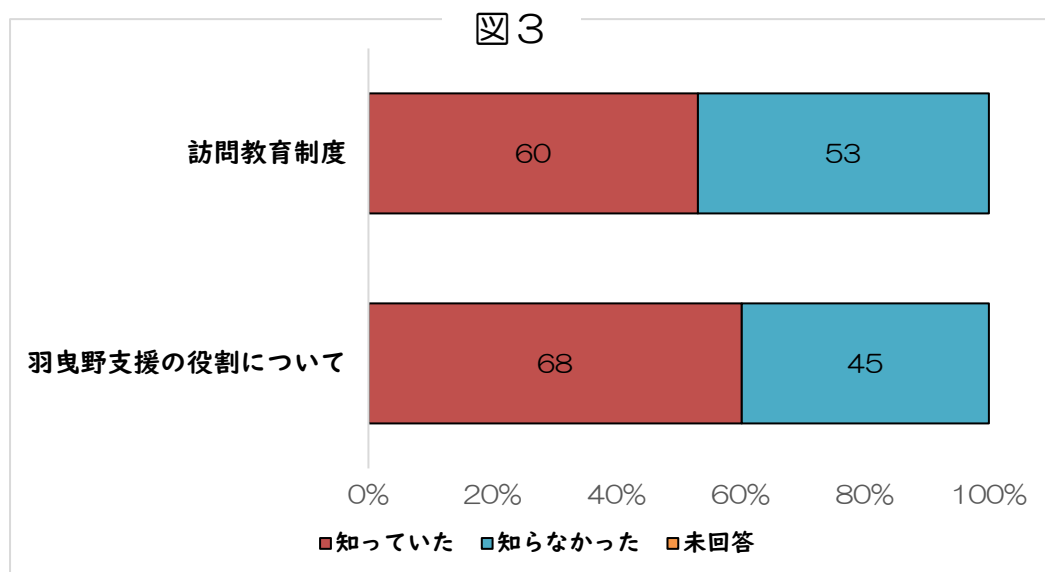
(2) セミナーの内容について



アンケートを4点法で集計。平均点3.5点以上が肯定的評価である。



(3) 羽曳野支援学校の役割と訪問教育制度について



3 考察とまとめ

- (1) 昨年度は新型コロナ感染予防のため、募集人数を減らして実施したが、5類感染症移行に伴い、例年多数の申し込みがあるため、募集人数を昨年度の50名から150名に増やして実施した。今回も募集人数が数日で埋まり、不登校を伴う心身症の子どもたちに対する関心の高さがうかがえた。
- (2) 図2では、どの項目についても3.5点を超えており、好評であった。
- (3) 質疑応答では、具体的な事例に対する質問が多く、家庭環境の問題、不登校や心身症を伴う子どもへの対応において困難な事例が多く挙げられた。